

第3学年英語科学習指導案

日 時：2006年10月2日(月)5校時
学 級：遠野市立土淵中学校
3年A組(男子17名 女子9名 計26名)
指 導 者：遠野市立土淵中学校
教諭 岩 間 悦 子
ALT Teresa Marie Pickering
共同研究者：佐 藤 英 紀(遠野中)
菅 原 富美子(青笹中)

1 単元名 Unit 5 Cell Phones - For or Against ?
(東京書籍 New Horizon English Course Book 3)

2 単元について

(1) 英語教育の時代要請について

現行の学習指導要領では、自ら学び、自ら考える力などの「生きる力」を育成することがねらいとされている。英語科教育では、「生きる力」としての力を「実践的コミュニケーション能力」としてらえ、その基礎を養うために、次の3つの目標を掲げている。

外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深める。

外国語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図る。

「読むこと」や「書くこと」などの実践的コミュニケーションの基礎を養う。

以上の趣旨を生かし、言語材料は、基礎的・基本的な内容を重点的に扱い、「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の4領域をバランスよく指導することを配慮した指導計画と評価の工夫・改善が求められている。

(2) 教材について

本単元は、一般的によく利用されている携帯電話について、その使用の賛否を議論することを題材とし、自分の意見を的確に伝えることをねらいとしている。初期学習段階では、電話の歴史についても触れており、現在の携帯電話の利便性や、使用モラルなどを改めて考えさせられる教材である。

言語材料は、「現在分詞及び過去分詞の形容詞的用法」(後置修飾節)及び「間接疑問文」である。「形容詞的用法」は、形容詞的とは言っても、動詞的な性質を失っていないので、目的語や修飾語句を伴うことが多い。このため「現在分詞の形容詞的用法」は、1年次より学習してきた「述語動詞+目的語等」・「現在進行形」や、2年次より学習してきた「過去進行形」の発展的な学習としてもとらえることができる。また、「過去分詞の形容詞的用法」は、3年次で学習してきた「受動態」の発展的な学習としてもとらえることができる。「間接疑問文」は、前のユニットで学習してきた「疑問詞+不定詞」の発展的な学習といえる。ここでは、述語動詞の目的語(名詞節)になる間接疑問文を扱っており「疑問詞+不定詞」の学習と関連させた指導が必要である。

どちらの言語材料も、1・2年次までの学習範囲では、2文でしか表現できなかった内容を1文で知的かつ簡潔に表現している。これまでの学習過程と同様に、音声からの導入より、文を介した理解を通して、さらには表現活動につなげていきたい。

(3) 生徒について

全体として、明るくまじめに学習に取り組む環境ができている。表現活動においても、他から学ぼうとする雰囲気がある。しかし、全体的に学力が低く、8月に行なわれた実力テストでは、2割以下の正答率の生徒が6人であった。活発な数人の男子の発言の陰で、意図的に個別指導につかないと、学習内容が分からないまま過ごしてしまう生徒も少なからず存在する。

3学年4月に行われたNRT全国標準診断的学力検査では、どの領域においても全国正答率を下回る。(表1)誤答分析の結果、語順整序問題が26人中わずか2人の正答率であり(表2)、日頃から語順を意識した学習活動(特に「述語動詞+目的語等」)を展開していかなければならない。昨年10月に行われた学力定着度状況調査では、時制や3人称の観点からの問題の正答率においても、全ての正答率を10%~20%を下回り、わずか30%台の正答率であった。人数にすると9人の正答率である。これらのことをふまえ、時制の意味のとらえ方で特に注意して指導を必要とする「現在分詞及び過去分詞の形容詞的用法」については、現在形及び過去形の復習を取り入れた学習活動を展開する必要があると思われる。

学力的には高いとは言えない学級であるが、前向きに学習に取り組む姿が見られる。

NRT 検査では、落ち込んでいる部分が一部回復しつつある。例えば、does を使った表現は、11 人より 25 人、未来形は 9 人より 18 人が表現できるようになった。今後も復習教材を取り入れ、スモールステップで学習を展開し、定着を図りたい。

(表1) NRT 全国標準診断的学力検査結果 (平成 18 年 4 月)

	本校正答率	全国正答率	全国比(全国 = 100)
聞くこと	57.3%	62.5%	92
話すこと	57.7%	61.5%	94
読むこと	53.6%	66.7%	80
書くこと	39.8%	53.1%	75

(表2) NRT 全国標準診断的学力検査結果分析 (26 人中)

問題と正答人数	問題と正答人数	問題と正答人数
・未来形 9人	・月日の言い方 11人	・文章理解 11人
・does の表現 11人	・比較・最上級 3人	・主語の把握 9人
・助動詞 8人	・つなぎ言葉 15人	・語順整序 2人
・従属接続詞 4人	・適語補充 2人	(述語動詞
・不定詞 10人	(助動詞・前置詞)	+ 目的語等)

(4) 指導観について

NRT 学力検査及び学習定着度状況調査の分析結果を踏まえ、課題となっている教科の教材研究や指導方法の改善を図るため、ブラッシュアッププロジェクトチームでは、次のような点に留意しながら、指導を進めていきたいと考えている。

興味・関心を持って学習させる指導過程

- ・ 理解を助けるために次のような手順で学習を進める。「現在分詞及び過去分詞の形容詞的用法」及び「間接疑問文」でも、音声や絵などの導入より理解を促す。現在分詞及び過去分詞の形容詞節も、既習の場面設定や言語材料を多く使用していきたい。さらには、絵や写真を使って、表現活動をさせていきたい。「間接疑問文」では、目的語になる「疑問詞+不定詞」との意味上の主語の違いを理解し、その場に応じた適切な表現活動をさせていきたい。
- ・ 学習の主体者としての意識を持たせるために、学習形態の在り方を工夫する。「形容詞的用法」及び「間接疑問文」の導入段階では一斉指導を、表現活動では相談し合って学習できるペア学習の形態を取り、教え合いの場を設ける。また、ペア学習の後には、形容詞的用法を利用して、修学旅行の写真などを使って友達の紹介文を作成することによって、文化祭に向けた発表活動へとつなげていきたい。

達成感を持たせるための指導過程

- ・ 指導と評価の工夫をする。本単元では 8 時間の指導時間を設定する。第 1 時間目には、単元の導入として、全体構造と学習内容を提示し、生徒に単元の見通しと目標を持たせる。1 時間毎の具体的評価規準を観点別 4 技能毎に分け、評価場面を意図的に設け、評価する。表現活動においては、習熟に応じた指導と評価をするために、個々の実態によって、目標を選択させたり、教師側から目標を明示したりすることにより、個々に応じた指導と評価を心掛けたい。

定着のための反復練習・家庭学習の在り方

- ・ 「音読」には時間を十分に取、「読める」という自信を持たせる。「音読の力」が「書くこと」の力になる。「書くこと」の指導においては、個々の生徒のレベルによって段階的なつまづきがあるため、単語レベルで書くこと、語順を正しく書くこと、(特に「述語動詞+目的語等」に着目)、日本語を英語に書き換えること、の 3 点から負荷をかけながら、個に応じた指導を進め、それぞれの表現活動につなげたい。
- ・ 授業・家庭学習・授業のサイクルをとらえた授業展開をし、生徒の家庭学習の内容をチェックし、評価していく。家庭学習には、主に「読むこと」「書くこと」における課題を課し、その内容は次時の導入段階で、音読、デイクテーションや、発展的に和文英訳などのチェックテストとして行う。また、そのチェックテストの内容は、本時の目標や展開につながるワン・フレーズを可能な限り使うなど、一連のつながりのある授業をしていきたい。

3 単元の指導目標

(1) 【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】

- ・ 「形容詞的用法」などを用いた表現の言語活動に積極的に取り組んでいる。

- ・ 自分の考えが賛成か反対か、を相手にはっきり伝わるように、言語活動に積極的に取り組んでいる。

(2) 【 表現の能力 】

- ・ 「形容詞的用法」などを用いて、強調すべき部分や、正しいイントネーション、区切りで状況に応じた音読ができる。
- ・ 時制に気をつけ「形容詞的用法」を用い、相手に正しく伝えることができる。
- ・ 自分の考えを賛成か反対かを理由を述べて、相手に伝えることができる。

(3) 【 理解の能力 】

- ・ 時制に気をつけ、「形容詞的用法」及び「間接疑問文」について、正しく理解し、読みとり、聞き取ることができる。

(4) 【 言語や文化についての知識・理解 】

- ・ 「形容詞的用法」及び「間接疑問文」の意味・用法を正しく理解することができる。

4 単元の指導計画・評価計画 (Unit 5・・・10時間)

具体的評価規準において、 で囲んだ4技能を評価する。

(L...listening, S...speaking, R...reading, W...writing)

時間	学習内容	具体的評価規準				評価方法
		関心・意欲	表現の能力	理解の能力	言語文化理解	
1 2	【Starting Out】 ・ 現在分詞及び過去分詞の形容詞的用法の文を用いた電話の歴史の概要文について理解し、形容詞的用法の文を使って、3文以上の英作文で表現しよう。	L S R W ・ 電話の歴史を把握し音読を積極的にすることができる。	S R W ・ 教科書 p50 の内容を理解し、正しく音読することができる。	L R L R	L S R W ・ 形容詞的用法の文の形、用法、意味を理解することができる。	発表 授業観察 学習シート レポート
		L S R W ・ 絵や写真を用いて形容詞的用法の文を使い、3文以上の英作文で表現することができる。	S R W L R	L R L S R W		
3	【Dialog】 ・ 間接疑問文を用いた2人の電話を介した会話を表現しよう。	L S R W ・ 2人の対話の様子を把握し音読を積極的にすることができる。	S R W ・ 教科書 p51 の内容を理解し、正しく音読することができる。	L R L R	L S R W ・ 間接疑問文の文の形、用法、意味を理解し、表現することができる。	発表 授業観察
4 5 6	【Reading for Com. 議論に参加しよう】 ・ 中学生の携帯電話の使用についての賛否両論意見を理解し、自分の意見賛否をはっきりさせて表現しよう。	L S R W ・ 様々な意見内容を理解し、音読を積極的に表現することができる。	S R W ・ 教科書 p52 ~53 の内容を理解し、正しく音読できる。	L R L R	L S R W ・ 教科書 p52~53 の内容を理解し、それぞれの意見を正しく捉えることができる。	発表 授業観察 学習シート レポート
		L S R W ・ 携帯電話使用についての賛否や、その理由を含めて、正しい英文で表現することができる。	S R W L R	L R L R	L S R W ・ 友達の理由を含めた賛否意見を正しく聞き取ることができる。	
7 8	【Listening Plus 5 and Writing Plus 1】 ・ 優先席に関する議論について聞き、文章の構成を考えて自分の意見を主張しよう。	L S R W L S R W	S R W S R W	L R L R	L S R W L S R W	発表 授業観察 レポート 自己評価
		L S R W ・ 文章構成を考えながら、意見を主張する文を表現することができる。	S R W L R	L R L R	L S R W ・ 賛否論を理由とともに聞き取り、書かれた賛否の理由を正しく選ぶことができる。	

5 本時の指導

(1) 授業の構想

授業のはじめに、宿題の確認として、ディクテーションテストを実施する。展開では、教師の模範発表の内容理解、現在分詞及び過去分詞の形容詞的用法を含んだ教科書本文の音読練習、発表原稿づくり・練習、及び数ペアの写真・絵を使った発表を行なう。写真や絵について表現する楽しさ、他から学ぶ良さを味わわせたい。また、取り組み過程の評価を取上げ、次時の活動につなげる。

(2) 本時の目標

・「現在分詞及び過去分詞の形容詞的用法」等を用いて、何をしているところか、写真や絵を説明することができる。

(3) 本時の展開

過程	学習活動	生徒の活動	教師の指導・援助留意事項		教具等	具体的評価規準（方法）
			J E T	A L T		
導入 10分	1 挨拶	1 挨拶・日付を答える。	1 ALT と生徒援をする。	1 挨拶・日付を尋ねる。	紙板書 ワークシート	2 (テスト) A 3文正しく書くことができた。 B 2文正しく書くことができた。 C 一斉指導において、再指導する。
	2 Dictation (3文)	2 Dictation Test を解答する。	2 下位生徒への支援をする。	2 Dictation の問題を出題する。		
展開 35分	3 課題の提示	3 課題を理解する。	3 課題の提示する。	3		
	「現在分詞及び過去分詞の形容詞的用法」の文を用いて、写真や絵を紹介しよう。					
	4 ALT の模範発表	4 ALT の模範発表を聞く。	4 絵の説明・課題の目標を示す。	4 ゴッホの絵について、紹介をする。	ゴッホの絵 紙板書	5 コーラス・ディング 全体評価 6・7 (観察・発表) A 自力で発表文の作成をし発表することができる。 B ペアと協力をし、役割分担をしながら発表することができる。 C 練習してきたシートを使って、英文の作成を再指導する。
	5 教科書の音読・暗記	5 教科書の音読・暗記をする。	5 教科書の音読・暗記文を紙板書で提示する。	5 生徒と共に音読する。	紙板書	
	6 発表文づくり及び練習 (ペアワーク)	6 発表文を作成し、練習をする。	6 課題説明及び活動支援をする。	6 生徒の活動を支援する。	和英辞典	
	7 発表	7 発表を聞く。発表をする。	7 発表に対し評価をする。	7 発表に対し評価をする。		
	8 確認テスト (語順整序問題5問)	8 確認テストをする。	8 テストの提示をする。	8 テストの提示の補助をする。		8 (テスト) 5問の語順整序問題を用意し、5分間で、自分で出来る位の問題を解く。
終末 5分	9 次時の予告	9 次時の学習を理解する。	9 次時の学習予告をする。	9		
	10 宿題の提示	10 宿題を確認する。	10 宿題を提示する。	10		

(4) 板書計画

October second
Monday
(weather)

1年時に使用
した教科書
p 74 ~ 75
ピクチャーカード

今日の目標 「~しているのは です。」と
写真や絵を使って説明しよう。

Dictation Test

- 1 The boy reading a book (is Ken).
- 2 The boy listening to music (is Mike).
- 3 The woman running in the park
(is Ms.Green).

- 1 This is a picture { taken { days ago
years ago
 { painted { by 人名
- 2 The { animal
 { man
 { woman } ing ~ is 人名
 その人・動物の様子などを表すもう1文
 付け加える。(可能な場合)